

たかがツイッター，されどツイッター
－複数アカウントを使いこなす青年期女性への質的研究－

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
家族機能・社会臨床クラスター
地下 昌里

本研究の目的は，複数のアカウントを持つツイッター利用者が，何を体験し，その体験をどのように意味づけているのかを描き出すことである。ツイッターにおいて複数アカウントを所有している女性 6 名(24～26 歳)に対する半構造化面接によりデータを収集した。修正版グラウンデッドセオリーアプローチ法による分析の結果，17 個の概念，4 個のサブカテゴリ，4 個のカテゴリが生成された。そして，ツイッター利用者の体験の意味づけの変化のプロセスについての一つのグラウンデッドセオリーが構築された。

本研究から，自己形成と親密性の確立の両立が課題となる青年期にある利用者が，ツイッターにおいてフォロワーとの豊かな相互交流を通して自己形成していく様子や，その体験がツイッターだけに閉じた世界からより開かれた生活世界へと展開していく過程が描き出された。利用者は，ツイッターにおいて繰り返される「書く／読む／応答する」活動を通して，自己形成をしていた。このことから，ツイッターは青年期の課題である自己形成を促進する経験的学習としての意味をもつことが示唆された。また本研究では，通常はネガティブに捉えられがちなツイッターでの体験も，利用者が最終的には人生における成長の糧へと変化させていることが明らかとなった。本研究は，利用者の個人的体験の語りを通して，ツイッターという世界の今日的意義の一つの側面をも提示し得たと考えられる。